



日本における女性の政治参画推進に向けて : ポジティブアクションに着目して

前田, 湖春

(Citation)

課題研究優秀ポスター, 2026:36

(Issue Date)

2026

(Resource Type)

conference poster

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100505015>



日本における女性の政治参画推進に向けて ーポジティブアクションに着目してー

神戸大学附属中等教育学校 6年2組33番 前田湖春

研究背景・構成

表1 日本国内の議会における女性議員割合

議会名	女性議員割合(%)	議員数(人)	女性議員数(人)
衆議院	14.6	465	68
参議院	29.4	248	73
衆参両院	19.8	713	141

朝日新聞社(2025)より筆者作成

他国と比較しても、日本では女性議員割合が低く、表1からは、参議院>衆議院となっていることが読み取れる。
この理由として、参議院は任期が6年と衆議院より長いこと、議会の解散がないことから、職業として衆議院よりも安定していることが考えられる。(尾野2020)この結果および理由から、女性議員が少ない状況に関心を抱き、考察を行った。
本研究は「女性議員が少ない理由」、「女性議員を増加させる必要性」、「女性議員を増加させるための手法および各国の事例」の3点から成り立つ。

RQ・キーワード

日本における女性の政治参画推進に向けて
ーポジティブアクションに着目してー

- ・ポジティブアクション
- ・女性の政治参画
- ・政治分野における男女共同参画の推進に関する法律

女性が議員が少ない理由

◆ 立候補理由

表2 立候補にあったの最も重要な契機

国政選挙へ初挑戦を決意するにあたり最も重要な契機	全員(%)	男性(%)	女性(%)
①政党本部からの働きかけ(出馬要請)	23.2	18.8	37.9
②個別の国会議員や県議会議員からの働きかけ	21.6	20.8	24.1
③家族・友人からの働きかけ	1.6	1.0	3.5
④所属する組織からの推薦(業界団体、労組、市民団体など)	9.6	8.3	13.8
⑤自らの意思	44.0	51.0	20.7

三浦(2020)より筆者作成

①～④は外部からの影響を受けているもの、⑤は自分の意思と分けることができる。
①～④では女性の割合が、⑤は男性の割合が高くなっている。
立候補者の適性がある素質に「地元意識があること」「自前で選挙ができること」が挙げられ、この2点は現在の日本ではジェンダー中立なものではない。(三浦2020)

理想の候補者モデルが男性化されていることが、女性の多くが
自分の意志で立候補を決意しない理由であると考えられる。

◆ 私的領域

表3 立候補の際に感じた不安要素

初めて国政選挙への立候補を決意したとき、以下の要素についてどの程度不安に思ったか (1 まったく思わなかった)～「4 とても思った」)	全員(%)	男性(%)	女性(%)
①知名度が低いこと	2.8	2.8	2.9
②政治活動の経験が少ないこと	2.5	2.4	2.7
③資金力が足りないこと	2.8	2.8	2.8
④家族からの支援が得られにくいこと	1.9	1.9	2.0
⑤政治家としてワーク・ライフ・バランスを確保できないこと	2.1	1.9	2.5
⑥政治家になると自身のプライバシーを確保できないこと	2.3	2.1	2.7

三浦(2020)より筆者作成

本研究において私的領域は、議員としての仕事とは別の個人の仕事を意味する。
①～④においてはあまり違いが見られない。
①②は性別が理由とならないこと、③④においてはこのアンケート対象が当選済みの議員であることが理由であると考えられる。
三浦2020によると「4 まったく思わなかった」と回答した割合は以下の通りである。
⑤男性37.0% 女性15.8% ⑥男性37.0% 女性15.8%
⑤⑥の内容は議員個人の問題である。

現在の社会では、男性に比べ女性の方が
私的領域を侵害されることを不安に感じやすいと考えられる。

女性議員を増加させる必要性

五ノ井・小川(2022)によると、女性議員は男性議員と比較して、「女性の権利」および「子育て」についての請願を国会により多く紹介している。また、法曹関係出身の議員が法務委員会に、医師出身議員が厚生労働委員会に、それぞれ多く国会により多く請願を紹介している。
この事実から、議員は自らの属性に関連する内容を多く紹介すると考えらる、そのため、女性議員が少ない現状では、女性が当事者である「女性の権利」や現状では、女性が負担することが多く
なっている無償ケア労働に関する請願されづらいと考えられる。

女性議員を増加させることは、正しく、より多くの国民の声を国会に反映
することにつながるため、国会議員の男女比率が偏る現状は改善するべき
である。

ポジティブアクション

定義：一義的に定義することは困難だが、一般的には、社会的・構造的な差別によって不利益を被っている者に対して、一定の範囲で特別の機械を提供することなどにより、実質的な機会均等を
実現することを目的として講じる暫定的な措置のこと。(男女共同参画局 平成11年)
クォータ制はポジティブアクションの一種で性別を基準として一定の人数や比率を割り当てる手法
である。OECD(経済協力開発機構)加盟国の35カ国のうち29カ国が導入しており、導入国は高水準の
女性議員割合である(佐藤、武丘 2022)。また1995年~2017年で女性議員比率が15%以上増加させ
た13カ国すべての国で導入されている。

クォータ制は女性議員割合を増加させるために、有効な手段である。

各国の事例

 日本	・「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」 男女同数の候補者擁立の努力義務 →効力が弱く実現に至っていない 村上(2019)	 フランス	・2000年「パリテ法」 男女同数の候補者の義務化 →クォータ制の導入 徐々に女性議員割合が増加 村上(2019)	 ノルウェー	・各政党がクォータ制を導入 ・社赤井主義左翼党が世界で 最も早くクォータ制を導入 浅井(2021)	 スウェーデン	・政党が独自にクォータ制を導入 ・男女交互の候補者名簿を導入 ・産休育休制度の充実 浅井(2021)
 アイスランド	・各政党がクォータ制や候補者名簿 の40%を割り当てるなどを導入 ・世界初、企業に対して男女同一 賃金を義務付けた 浅井(2021)	 デンマーク	・現在はいずれの政党も クォータ制を導入していない。 ・早期より男女平等の権利を 認めていた 浅井(2021)	 フィンランド	・女性に被選挙権が最も早く 認められた ・逆差別の可能性を考慮し、 クォータ制に否定的である 浅井(2021)	 ルワンダ	・ジェノサイド後にクォータ制や 女性を優遇する政策をとった ・重要な閣僚ポストには男性が多く クォータ制の問題点が指摘される ブラン・インタナショナル・ジャパン(2023)

結論

◆ 女性議員が少ない理由

・理想の立候補者モデル
が男性化されている。
・無償ケア労働の負担が
一般的に女性が大き。
↓
私的領域が侵害される
ことに対する不安を抱え
やすい。

◆ 女性議員を増加させる必要性

・議員は自らの属性に関連
する内容について多く請願
を行う。
↓
正しく、より多くの国民の
声を国会に反映すること
につながるため。男女比率が
異なる状況は改善するべき
である。

◆ 女性議員の増加の手法と事例

・ポジティブアクションの
一種であるクォータ制は有
効な手法。
【北欧】男女平等に早期から
対応し、必要に応じ
クォータ制などを導入。
【ルワンダ】
クォータ制、女性優遇政策
・比例代表制を導入。

今後の展望

◆ クォータ制について指摘される問題点および 改善案の明示。

◆ 日本において女性議員を増加させるための最適な 形態についての検討。

◆ 宗教分布と女性の政治参画の関係についての調査。

参考文献

- 尾野 2020 「政治家というキャリアー一議員のジェンダー分析」『日本政治研究雑誌』(2020)。
[1] 尾野 2020 「フランスにおける女性議員の増加のメカニズムとその要因」『クォータ制導入の経緯からパリテ法の制定・本
来まで』(2020)。
[2] 尾野 2020 「フランスは、何故議員「女性候補者」の割合を増やしたのか?」(2022)。
[3] 尾野 2020 「フランスは、何故議員「女性候補者」の割合を増やしたのか?」(2022)。
[4] 尾野 2020 「フランスは、何故議員「女性候補者」の割合を増やしたのか?」(2022)。
[5] 尾野 2020 「フランスは、何故議員「女性候補者」の割合を増やしたのか?」(2022)。
[6] 尾野 2020 「フランスは、何故議員「女性候補者」の割合を増やしたのか?」(2022)。
[7] 尾野 2020 「フランスは、何故議員「女性候補者」の割合を増やしたのか?」(2022)。
[8] 尾野 2020 「フランスは、何故議員「女性候補者」の割合を増やしたのか?」(2022)。
[9] 尾野 2020 「フランスは、何故議員「女性候補者」の割合を増やしたのか?」(2022)。
[10] 尾野 2020 「フランスは、何故議員「女性候補者」の割合を増やしたのか?」(2022)。
[11] 尾野 2020 「フランスは、何故議員「女性候補者」の割合を増やしたのか?」(2022)。
[12] 尾野 2020 「フランスは、何故議員「女性候補者」の割合を増やしたのか?」(2022)。
[13] 尾野 2020 「フランスは、何故議員「女性候補者」の割合を増やしたのか?」(2022)。
[14] 尾野 2020 「フランスは、何故議員「女性候補者」の割合を増やしたのか?」(2022)。
[15] 尾野 2020 「フランスは、何故議員「女性候補者」の割合を増やしたのか?」(2022)。
[16] 尾野 2020 「フランスは、何故議員「女性候補者」の割合を増やしたのか?」(2022)。
[17] 尾野 2020 「フランスは、何故議員「女性候補者」の割合を増やしたのか?」(2022)。
[18] 尾野 2020 「フランスは、何故議員「女性候補者」の割合を増やしたのか?」(2022)。
[19] 尾野 2020 「フランスは、何故議員「女性候補者」の割合を増やしたのか?」(2022)。
[20] 尾野 2020 「フランスは、何故議員「女性候補者」の割合を増やしたのか?」(2022)。
[21] 尾野 2020 「フランスは、何故議員「女性候補者」の割合を増やしたのか?」(2022)。
[22] 尾野 2020 「フランスは、何故議員「女性候補者」の割合を増やしたのか?」(2022)。
[23] 尾野 2020 「フランスは、何故議員「女性候補者」の割合を増やしたのか?」(2022)。
[24] 尾野 2020 「フランスは、何故議員「女性候補者」の割合を増やしたのか?」(2022)。
[25] 尾野 2020 「フランスは、何故議員「女性候補者」の割合を増やしたのか?」(2022)。
[26] 尾野 2020 「フランスは、何故議員「女性候補者」の割合を増やしたのか?」(2022)。
[27] 尾野 2020 「フランスは、何故議員「女性候補者」の割合を増やしたのか?」(2022)。
[28] 尾野 2020 「フランスは、何故議員「女性候補者」の割合を増やしたのか?」(2022)。
[29] 尾野 2020 「フランスは、何故議員「女性候補者」の割合を増やしたのか?」(2022)。
[30] 尾野 2020 「フランスは、何故議員「女性候補者」の割合を増やしたのか?」(2022)。

2026年3月提出